

注意喚起

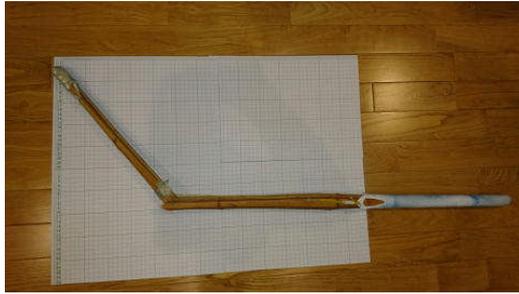
富山県剣道連盟 普及部

○県外で、試合・稽古中の大きな事故が報告されています。
竹刀の安全管理（手入れ）について、再度、ご留意ください。

－ 県内でのヒヤリ ハット 事例 －

【事例1】成人男子（7月 試合中 竹刀検査なし）

- ・攻防の中で相手の面を竹刀で受けたが、相手がさらに前に進んで面を打ってきたため、迎え突くように竹刀を胸部部に当てて防いだところ、竹刀が中結付近で音を立て真っ二つに折れた。 ※双方にけがなし



【竹刀の状態】 SSPマークあり

- ・破損が激しいため、折れた部分の亀裂の有無は確認できません。
- ・中結がやや中央付近に寄っていたが、破損部以外の不備はなし。

【考えられる要因と対策】

- ・車の中に竹刀を置いていたため、内部が太陽熱で乾燥し水分量が減少した。
- ・夏季は車の中が高温になることがあるので、竹刀を長時間放置しない。
- ・ささくれをなくすとともに、竹刀油をスプレーするなどの手入れを怠らない。

【事例2】高校生男子（4月 試合中 竹刀検査パス 2週間前に竹刀購入）

- ・攻防が行われ、一瞬、互いに間を取ったところで、主審が竹刀の異常を目視し、すぐに「やめ」をかけた。 ※双方にけがなし

【竹刀の状態】 SSPマークあり

- ・事前に竹刀検査をパスしている。
- ・先革から竹刀の先端が飛び出している以外(写真1)、先革の長さ、先芯、弦の張り具合、中結の位置等に不備はみられなかった。念のため竹刀をばらしたところ、打突側の竹の中央部付近が大きくひび割れ(写真2)を起こしていた。

【対策】

- ・定期的（特に試合前）に点検を行う習慣を身に付ける。
- ・手入れを行う際、竹刀をすべてばらし、打突部分だけでなく、全体を点検する。
- ・中学生以上の生徒には、竹刀の仕組みを理解させ、自身で点検する習慣を身に付けさせる。



写真1



写真2

